

「2022 平和行動 in 根室」の開催



日本固有の領土である北方四島が、旧ソビエト連邦によって不法占拠されてから 77 年が経過する中、連合は 3 年ぶりに対面による「2022 平和行動 in 根室」を 9 月 10・11 日、2 日間に渡り開催した。

今年は新型コロナ感染予防のため参加者数を制限し、1 日目は学習会を 3 会場に分散して北方四島学習会を開催した。専門家による講演では現在の国際情勢が北方領土問題にもたらす影響や、島の現状や諸課題、日ロ共同経済活動の展望など様々な観点から北方四島について学んだ。



2 日目、納沙布岬・望郷の岬公園において開催された「2022 平和ノサップ集会」には、全国から 518 名の仲間が結集した。

主催者挨拶にたった連合芳野会長は、「ロシアは北方領土問題解決のための環境作りを目的とする北方四島ビザなし交流や協同経済活動に関する協議などを一方的に破棄・中断を表明した。これらの一連の動きは、両国の関係を多方面に後退させることに他ならない。北方四島の一括返還と日ロ平和条約の締結を通じて北方領土問題を早期に解決し真の意味での戦後を迎えよう。」と述べた。

続いて、地元北海道を代表し挨拶にたった連合北海道杉山会長は、「ノサップ岬から貝殻島まではわずか 3.7 キロ。当時 17,291 人いた島民元居住者も、本年 6 月末現在では 5,446 人、平均年齢も 86.9 歳。高齢化が進んでおり、一刻も早い返還が求められる。しかし、根室に近い矢白別演習場ではオスプレイが参加して大規模の日米共同訓練が実施され、今年も 10 月 1 日から 14 日まで約 3500 人が参加しての訓練が予定されている。また、12 月には沖縄米海兵隊による「実弾移転訓練」の実施も予定されている。一方、ロシアは大規模な軍事演習「ポストーク」を実施しているが、軍事演習の応酬は、いたずらに地域の軍事的緊張を高める。平和は武力ではなく、対話による平和外交でしか創り出すことは出来ない。



国民の悲願である北方領土を一日も早く取り戻すため、77 年前に『一体何があったのか?』を、この根室で学習し、納沙布岬で感じたことを是非職場、地域の仲間に伝えて、今後の取り組みに繋げることをお願い申し上げます」と訴えた。

続いて、平和リレーが行われ、平和 4 行動スタートの地、沖縄へピースフラッグが受け渡された。最後に、地元釧根地協浅野会長が四島一括返還運動の更なる深化・ロシアによるウクライナ侵攻の平和的解決を訴える力強い団結がんばろうで締めくくった。

連合北海道は、今後も職場・地域にいる仲間とともに北方領土返還運動に粘り強く取り組んでいく。

